

環境先進国

ドイツから学ぶ

8

吉田 浩巳



ラインラント・ファルツ州のローランド・ホーン所長に「なぜ、ドイツが環境先進国といわれるのですか」と尋ねたときに、「ドイツでは、経済発展優先主義で物事が進められた歴史があります。何も起こらなければ、何も変わらなかつたでしょう。身近に目に見える影響が起つたからこそ、これではいけないと市民が気づいたのです。そして立ち上がったのです」。

さらに、「なにもドイツ人が利口だったわけではなく、気づくのが早かつただけだと

制が無いのがペルーです」と聞かされたことや、自動車の販売台数が世界第1位となつた中国で、排気ガスで着ていた白のワイシャツが1日で黒ずんだことなど、改めて世界的な環境基準制定の重要性と、基準を円滑に進めるための経済協力の必要性です。

さらには、私たち自身や、私たちの子孫に大きな影響を与えることになるという危機感をできるだけ多くの地球上の人間が共有することが大切であると再認識させられたのを覚えています。

チエルノブイリが転換期

経済的負担への理解も

政府も法整備を進めていく上で、避けては通れないのが市民に経済的負担を課すという事です。例えば、全ての

いえるかもしれません」と語つてくれました。  
この言葉を聞いた時、さまざまな思いが頭をよぎりました。ペルーで海に流れている汚れた排水を見て同行していた国連職員に尋ねた時に「規

ドイツでは1970年代にライン川の魚が大量死するといふ事件が起きました。原因が水質汚染による酸欠によるものだと分かり、この問題に取り組んでいこうとする環境NPOの設立が増え、その

排水を浄水場につなげるという政策を実施しました。このシステムは、初期投資による機器の設置だけではなく、維持・管理していくために24時間体制で職員の配置が必要となり、それに伴いコストもかかってきます。

NPOに参加や支援することによって環境問題に関わっていくことという人々も増えてきたのです。

「自分たちの生命に関わる飲料水の安全を常に確保するためには費用がかかっていることも市民に理解してもらわなければなりません。一方で、環境に対して負荷をかけなければ、このような費用は使わなくて済むという認識を持つてもらふことも大切です。



環境NPOが水質をはじめさまざまな環境に関する実態を調査し、その情

請求書を年に2回市民に送ることにより、支払っているという実感と自覚を促していきます」とホーン所長は話してくれました。  
(社団法人まちづくり国際